

日本薬科大学「漢方アロマコース」にて講義

2018年9月30日(日)、日本薬科大学お茶の水キャンパスにおいて、当協会の一般用漢方製剤委員会の長島義昌委員長が、文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム(BP※¹)」漢方アロマコース※²で2時間にわたって、OTC漢方薬に関する講義を行った。

漢方アロマコースは本年度で開講3年目を迎える、文部科学大臣に認定された薬学部唯一のBPであり、長島委員長は日本薬科大学からの依頼を受け、当協会の活動の一環として、昨年度に引き続いて登壇した。



講義は日漢協の紹介、漢方医学の起源、漢方医学と西洋医学の違い、副作用など治療上の注意点、気血水等の漢方独特の診断方法と代表的な処方の紹介に加え、三陰交や合谷といった「ツボ」の話にもおよぶ興味深いものであった。

当日は、台風24号が迫る悪天候にもかかわらず、50名近くの聴講者が参加し、漢方に対する関心の高さがうかがわれた。



※1 BP : Brush up Program for professional

社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣が認定したもの。

※2 漢方アロマコース

定員は50名で、計130時間の講座を行う。前期・後期を通じて120時間

以上受講すると、学校教育法に基づく「履修証明書」が交付されるほか、漢方・生薬系の科目を一定単位数以上受講し、試験に合格すると、日本薬科大学認定「漢方エキスパート」が発行される予定。